

# MEMBER COMPANY INTERVIEW

Vol. 5

創業は明治39年。120年にわたって  
福岡都市圏のほとんどのランドマークを手がけ  
全国各地で街づくりの一翼を担い続けてきた  
中村工業株式会社。

中村隆元社長が五代目に就任されたのは  
シーズアスリートのスタートとほぼ同じ頃でした。  
以来、メンバーの言葉や生きる姿勢に刺激を受け  
既成概念にとらわれない  
新たな挑戦を進めていらっしゃいます。  
その取り組みについて、話を伺いました。

## 中村工業株式会社

代表取締役

## 中村 隆元

### Profile

なかむら・りゅうげん — 1975年、福岡市生まれ。福岡建設専門学校を卒業後、中村工業に入社。鹿島建設に出向して6年間現場業務を経験し、2002年に同社へ戻る。新規事業のリニューアル事業をはじめ、数々のプロジェクトを通じて経験を積む。2015年、五代目として代表取締役役に就任。学生時代は、水泳、野球、ラグビーに熱中したスポーツマン。

— 御社のご支援には、メンバー同、いつも力をいただいています。そもそも、どのようなきっかけでシーズアスリートに入会されたのですか。

私は以前からテレビ番組で浦田理恵さん（ゴールボール）を存じ上げていました。ロンドン2012大会の直後、父（先代社長・隆輔氏）が浦田さんの講演を聴く機会がありました。シーズアスリートが父とは旧知の間柄である麻生泰さん率いる麻生グループの事業と知り、私もその意義に共感して、すぐ入会したのです。

以来、弊社主催の安全大会や所属団体の会合など、さまざまな機会でご講演をお願いしていますし、信沢用秀さん（ゴールボール）には私の点字名刺を作っていただいています。今年は、川野将太さん（車いすテニス）が講演と車いすテニスの体験イベントをしてくださいました。

— メンバーと触れ合う機会を積極的に作ってくださり、本当にありがとうございます。

弊社がスポンサードしている7人制女子ラグビー『ナナイロプリズム福岡（以下、ナナイロ）』の選手にも、浦田さんの講演をお願いしました。日本代表メンバーの迫田夢乃は、弊社の社員でもあります。7人制ラグビーもゴールボールもマイナースポーツで、ナナイロの選手や浦田さん達は、いわばパイオニア。講演では、アスリートだからこそ共感できる話をたくさん語られ、選手たちも目を輝かせ、涙ぐみながら聴いていました。

近年、あらゆるスポーツリーグが誕生し、いつの間にか「スポンサーがつくのはあたりまえ」という風潮が生まれつつあります。でも物事を「あたりまえ」と思い始めた瞬間、人は謙虚さを失う。それは絶対にダメです。

シーズアスリートの皆さんと関わって一流のバラアスリートの考え方に触れ、「幸せを感じる力」の大切さを実感しました。日々の暮らしには、「無事に仕事が終わった」「難しい仕事があまくいった」など、小さな嬉しいことがたくさんある。けれど人は、足りないものばかり数えようとします。

私の脳裏にいつもあるのは、初めて聞いた講演で浦田さんが言われた「目が見えなくなっても、まだ耳があるから聴こえる、口があるから話せる」という言葉です。失ったものを数えるのではなく、今あるものに感謝する。そう発想できるかできないかで、運命は大きく変わります。私が伝えたいのはコレだ！と衝撃を受けました。

— 「幸せを感じる力」とは、素敵な言葉ですね。

社員やナナイロの選手たち、そして世の中の若い世代には

「幸せを感じる力」の  
大切さを伝えたい



# 支えてくれる人がいて 自分がいる その思いに 全身全霊で応える

「幸せを感じる力」を身につけて自分の運命を切り拓いて欲しい。そのために昨年、迫田を含めて社内にチームを作り、「幸せを感じる力」を伝えるプロジェクトを立ち上げました。将来的には「建設業で働く幸せ」を伝える学校をつくりたい。それが私の夢です。

## ー 創業120周年を迎えた今、5代目として守り続けたいことは何ですか。

今年7月、ペイペイドームで全社員と家族、協力会社を集めて「大運動会」を開催しました。110周年では福岡国際会議場で式典を行いました。もっとアットホームで堅苦しくなく、みんなが笑顔で1日楽しめる機会を作りたいからです。中小企業の原動力は、仲間を家族のように思い合う風土。建設土木業界はピラミッド型構造で、ゼネコンから一次、二次、三次と仕事の流れます。弊社は一次会社に位置しますが、二次、三次、四次にあたる皆さんの協力無しに仕事はできません。だからこそ、多くの方々への「感謝」をテーマに「大運動会」を開催しました。

弊社がこれまで存続できたのは、多くの方々の力を結集して社会の要請に応えられたからです。何より、支えてくださる皆さんの存在があったからこそ。だから決して謙虚な心を忘れてはいけないと思っています。

とび職人だった初代の急逝で、畑違いの二代目が後を継ぐことになった86年前、とびの親分たちが「わしらが責任をもって



二代目を支える」と連名で血判状をしたためてくれました。二代目から三代目(祖父)に代替わりした55年前は、福岡で大きなプロジェクトがいくつも動いていた頃です。まだ若い祖父に三代目が務まるのかと周囲が危惧する中、やはり親分たちが連署を書いてくれました。「支えてくれる人がいて、自分がいる」「その思いに全身全霊で応えるのが社長の務め」。そんなスピリッツが、代々中村家には引き継がれています。

先人が築いてくれた今ある信用を“あたりまえ”と思っていけない。だから「過去を肯定できるよう、今、目の前のことに懸命に取り組もう」と、みんなに伝え続けています。求められることを謙虚に受け止め、感謝する。老舗企業が陥りがちな既成概念にとらわれることなく、勇気をもって新たな挑戦を続けようと思っています。

## ー 御社は、この採用難の時代においても、着実に新卒採用を成功されていると伺いました。その要因は何ですか。

きっかけは、1970(昭和45)年に就任した三代目の祖父が、とび職人の高卒採用を始めたことにさかのぼります。当時、職人を正社員雇用する企業など無かったし、「高卒の職人なんて!」と笑い飛ばされたそうです。それでも高卒者を採用し続けて丁寧に育て、職人は技能職、設計や施工管理者などは技術職として、両輪で技術部門を充実させていったのです。そして、多世代のバランスが取れた組織が構築できました。三代目が、家業から企業への礎を築いたと言っても、過言ではありません。

この頃から「採用は労力も手間も費用もかかる」という認

識が根づいたのは幸いでした。一方で、事業拡大に伴い、とび土工・機械・土木・リニューアル・PC工事の5部門ができて幅広く人材を受け入れられる体制が整ったのも、安定的な採用につながりました。

現在は採用専門の社外ブレーンとともに、さまざまな採用活動を実践しています。研修は、富士山麓の研修所で約3カ月、篠栗機材センターで1カ月かけて行います。研修を通じて当初の希望職種が変わることも珍しくありません。OJTを含め1年間は研修期間と位置付けているので、ミスマッチにならないよう「研修期間中にやりたい仕事を見つけて下さい」と言っています。二又瀬の社員寮(84室)も6年前に新棟建築と既存棟のリニューアルを行いました。

外国人技能実習生もミャンマー・インドネシア・ベトナムから22名を受け入れ、とび職人として育成しています。まもなく研修期間が満了する4名は日本に残り、正社員として頑張ってくれることになりました。

採用・研修・育成・処遇・福利厚生・資格取得支援・積極的登用など、縁あって中村工業に出会ってくれた仲間たちが、安心して長く働ける環境整備。それを半世紀以上続けてきたことが、今では弊社の企業文化になっています。

## ー 御社とシーズアスリートの関わりを通じて、さらに新たな価値創造が進みそうですね。

シーズアスリートの皆さんから、私は本当に多くを学ばせてもらっています。「思いを発信する力」も、その一つかもしれません。

中村工業は大手ゼネコンの裏方としてずっと仕事をしてきたので、一般の方々には私たちをご存じありません。とはいえ、これまで多くの足跡を残してきたという誇り(プライド)があります。その誇りとともに、これまでの感謝を表明する目的で、今年、みずほペイペイドームに広告看板を出しました。「支えてくださりありがとうございます。これからも私たちは挑戦を続けます」という、思いの発信です。

五代目である私の務めは、価値観や在り方が激動する現代社会において、今一度、大切なことは何か見つめ直し、普遍的価値観として確立し、後世に伝えていくことだと思っています。お客さまのために創意工夫し、ものづくりを楽しむ。それが私たちの喜びです。

これからも、シーズアスリートの皆さんに学ばせてもらいながら成長します。互いに刺激し合うパートナーとして、これからもよろしくお願いします。



▲ 高職人の半纏



▲ シンボルマーク

### マークについて

技術伝承の魂を受け継ぎ伝えていく意味を込めて「中」を鳶(トンビ)の形で表し線を太くすることで力強さを表現している。

### 色について

緑色は安全な社会と地域環境への貢献を願う経営理念を反映している。

|                                                                                                                                                         |              |                            |                                  |                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------------------|----------------------------------|------------------------|
|  COMPANY's Profile<br><b>中村工業株式会社</b><br>Nakamura Industries, Ltd. | <b>本社所在地</b> | 福岡県福岡市中央区舞鶴 3丁目 2-6        |                                  |                        |
|                                                                                                                                                         | <b>営業項目</b>  | ・ 鳶土工事<br>・ 土木工事<br>・ 解体工事 | ・ リニューアル工事<br>・ 山留工事<br>・ PCa版工事 | ・ 地盤改良<br>・ コンクリート圧送工事 |